



茨城県平和委員会・第1回常任理事会報告

この夏の活動が秋の取り組みにつながっていく！

県平和委員会第1回常任理事会は7月29日(土)の午後、水戸共同ビルで開催されました。常任理事会の前半はオンラインを併用した学習会、後半は当面の活動方針について話し合いました。この日も外気温は30度超。北半球の「沸騰化」を感じる中、7人の常任理事のみなさんが出席。オンライン学習会参加者は、宣伝不足もあって、2人だけでした。今後も様々なテーマで学習会を企画しますのでご参加ください。

▽戦争は平和的生存権を脅かす

学習会は、岩月康範日本平和委員会事務局次長による「許さない!2年連続の大軍拡」。「戦争は平和的生存権を脅かす最悪の事態」であり、私たちは「戦争をさせない」取り組みをしなければならない、と20ページに及ぶ資料を使って力説。とくに「戦争を支える」3つの基盤は「法的」(安保3文書や憲法改正など)、「物的」(軍事費など)、「人的」(自衛隊員、世論など)であり、軍事予算が成立しなければ大軍拡計画の全体が狂うことになる。今後10年間で5回の国政選挙があり、「政権が変わる、あるいは政権を追い詰めれば、大軍拡は変わる(止まる)」と運動のポイントを明らかにしました。

尚、「許さない!2年連続の大軍拡」のレジュメ希望者は、事務局までご連絡ください。お送りします。

▽当面の活動方針

当面の活動方針については篠原事務局長が提案。主な提案は以下の通りです。

- ・ロシアによるウクライナ侵略反対等の街頭宣伝を定例化して、継続的に取り組んでいる。引き続き、「ロシアは国際法を守れ」「大軍拡大増税反対」と反戦平和を訴える街頭宣伝を強化する。
- ・「戦争と平和パネル展」が県内22地域で企画。県内44自治体の半分で取り組まれている。写真と文(報告)を送ってもらい、平和かわら版において、各地の取り組みや経験を交流する。
- ・自衛官募集の対象者名簿の提供について、これに応じる義務はないと、自治体に要請する、懇談する取り組みを広げる。
- ・秋の宣伝行動について、チラシ制作委員会を立ち上げる。大軍拡反対などを大書した「桃太郎旗」を、という要望がある。
- ・会員数800人まで、あと40人。「30周年記念誌」を名刺代わりに活用し、入会を呼びかける。

木村泉代表理事が議長となり、出席者全員から発言がありました。4年ぶりに歩いた平和行進やパネル展の取り組み、各地域の事務局会議の様子や高齢化による悩み、自治体への要望書提出と懇談内容、家族会員の娘さんが入会した経緯や女性会員の復帰などを交流しながら「当面の活動方針」を確認しました。

「この夏の活動が秋の取り組みにつながっていきます。まだまだ暑いですが、がんばりましょう!」と青木勇代表理事が閉会あいさつをしました。



めた新しい「選抜制度」を検討する時期に来ているのではないのでしょうか。

波岡さんの説明によれば、1948年2月の「文部省」通達は「入学志願者数が入学定員を超過した場合には、入学試験を行うことができる」とし、入学者選抜の具体的方法は「高等学校側における入学試験を廃止し、出身学校からの報告書のみに基づく選抜とする」というものです(文部科学省「学制百五十年史」)。「特定の学校への集中を避ける」「受験準備の弊害をなくす」ことが、目指されました。これが戦後の公立高校入試の「出発点」だったということです。

ところが、学校間「格差」を助長しない、「受験競争」を解消するという「文部省」の理念に反して、小学校低学年から通塾しなければ水戸一高等に併設された中学校(中高一貫校)に入学することが「困難」になるほど「受験競争」が過熱しています。

他方、すでに指摘したように「定員割れ」高校は7割にも達しています。波岡さんが述べられた「高校入学希望者全入をもとめて」という提案に、17人の参加者一同大きく頷きました。

県立高校の入試について考える

民主教育をすすめる茨城県民会議 学習会 (7/23)



「民主教育をすすめる茨城県民会議」の総会が7月23日(日)の午後、県立青少年会館で開催されました。総会に先立って、波岡知朗全日本教職員組合副委員長による学習会、「県立高校入試のあり方を展望する」を拝聴し、意見交換をおこないました。

県内には最盛期111校の県立高校がありましたが、生徒減少を理由にした「統廃合」によって現在は92校1分校にまで減らされています。それでも今春の県立高校への志願倍率は1倍以下になり、二次募集をしたところが64校もあります。簡単に言えば、64校は入学希望者を全員受け入れることが出来るように「大人」が知恵を絞れば、受験競争をなくすことが「可能」になったのです。水戸一高等など志願倍率が高い学校も含

自衛官募集に関する自治体アンケート報告

県内77%の自治体が「適齢者名簿」を作成し、自衛隊に提供!

平和と個人情報を守る運動を広げよう!

自衛官募集をめぐって、国による地方自治体への「協力」要請が強まり、18歳や22歳の若者の名簿情報を自衛隊に提供する自治体が急増しています。この問題では、かすみがうら平和の会が、自衛隊適齢者名簿(年齢・性別・住所・名前の4項目の個人情報)を提出しないよう要望書を提出し、毎年粘り強く首長との懇談を重ねています。

県平和委員会は今年度の定期大会において「自治体の自衛官募集業務への協力に反対し、自治体と懇談する」ことを決めました。そこで、県内44自治体に「適齢者名簿」提供に関するアンケートをお願いし、実態調査をおこないました。各自治体の首長宛にアンケートを郵送(6月29日)した結果、8月2日までにすべての自治体から回答がありました。結果は、以下の通りです。

33市町村が「紙ベースで提供」していることがわかりました。電子媒体で「データ」を提供しているのは、美浦村だけでした。県内77%の自治体が、自衛隊に協力しており、これは全国水準(22年度60%超)をはるかに上回っています。

○住民基本台帳の閲覧を認めている…3市

《自衛隊の担当者が住民基本台帳を閲覧して、募集対象者を見つけて書き写す》

・坂東市 ・牛久市 ・鉾田市

○「募集対象者情報」を抽出して、閲覧させている…6市1町

《自治体が募集対象者情報を抽出しておく。それを自衛隊の担当者が書き写す》

・石岡市 ・水戸市 ・神栖市 ・行方市 ・土浦市
・つくば市 ・五霞町

○「募集対象者情報」を作成して、紙媒体で提供している…23市9町1村

・結城市 ・桜川市 ・常総市 ・取手市 ・潮来市
・日立市 ・筑西市 ・守谷市 ・笠間市 ・那珂市
・古河市 ・稲敷市 ・下妻市 ・鹿嶋市 ・高萩市
・竜ヶ崎市 ・小美玉市 ・北茨城市 ・常陸大宮市
・常陸太田市 ・ひたちなか市 ・つくばみらい市
・かすみがうら市 ・城里町 ・境町 ・河内町
・八千代町 ・茨城町 ・大洗町 ・利根町
・阿見町 ・大子町 ・東海村

○「募集対象者情報」を作成して、電子媒体で「データ」として提供している…1村

・美浦村

日本平和委員会は5月22日、自衛隊への適齢者名簿提出問題について運動交流会を開催しました。有田崇浩平和新聞編集長による基調報告と4市の活動報告等が「平和新聞」(6月5日号 2323号)で特集されています。「地方自治体は住民の個人情報を守る責務があること」「自衛隊法97条1項及び自衛隊法施行令120条は、(適齢者名簿作成・提出の)法的根拠にならないこと」などが詳しく書かれています。

「平和新聞 2323号」は日本平和委員会からたくさん取り寄せました。各地域での取り組みに活用してください。(連絡は、県平和委員会事務局 029-251-2806 篠原事務局長)。また、この件に関する情報交換なども積極的におこなっていきますので、自治体の動きをキャッチした際は、県平和委員会事務局までご連絡ください。

4地域の平和の会で「女性ミーティング」

阿見・土浦・かすみがうら・石岡

7月27日(木)、地域の平和の会の女性会員で集まる、初めてのこころみを行いました。かすみがうらのファミリーレストランに、阿見平和の会から1名、土浦平和の会から3名、かすみがうら平和の会、石岡平和の会からそれぞれ2名の8名が集まりました。

県単位の集まりに女性会員の参加が少ないことから、もっと女性の声が聞きたいと思い近隣の会へ声をかけたことがきっかけです。まず今回は顔合わせが主な目的で、お茶など飲みながらざっくばらんに話がしたいと思いあえてファミリーレスを選んでみました。しかし夏休みに入ったファ

ミレスは多くの親子連れなどであふれ大変な混雑で、幹事は大失敗でした。

そんななかでも地域での活動の様子や、ご参加の方のとなりなどが感じられ、収穫はあったと思います。

また機会があればこのような集まりを作り、普段話をする事のない他地域の方々と情報交換ができればいいですね。そして会員を増やすにはどうしたらいいか、じっくり話し合ってみたいと思います。(石岡平和の会 増山みゆき)





酷暑の中177人が観覧した「平和パネル展」

つくばみらい平和の会

つくばみらい市平和の会では、7月27～30日につくばみらい市「きらくやまふれあいの丘すこやか福祉館」で平和パネル展を開催しました。酷暑の中でしたが、大勢(177人)の人が観覧されました。

パネルは「村瀬守保日中戦争写真」「広島・長崎被爆写真」で、アンケートからの感想では、「戦争のことがパネルからよく理解できました。」「被害者してはよく展示を見る機会が多いが、加害者としての日本軍を知る1つの手掛かりになりました。」「日頃、平和とは何か、戦争とはどのようなことが起こった

のかをイメージを伝わるようには会話で難しく、なかなかできませんでした。いい機会になりました。小学1年女児の母です。」「こわかった。せんそうはとてもこわくこわくて、もうせんそうはならないでほしい。小学3年」など、たくさんの感想を寄せていただきました。《つくばみらい市平和の会 原田英治》



高校生の描いた原爆の絵を展示して

東海村平和委員会 川崎勝男

コロナ禍のため中断されていた東海まつりが7月23日に举行され、東海村平和委員会は「平和パネル展実行委員会」を立ち上げ、新婦人の会の協力を得て「高校生が描いた絵から平和の尊さを考える」と言う主題で原爆の絵を展示しました。前回は上回る160名を超える入場者がありました。楽しい「お祭り」の会場に原爆の悲惨な絵を展示している中で、アンケート記入には24名が応じてくれました。小学生から70代の高齢者にわたる幅広い層の感想が寄せられました。そのすべてを紹介したいと思いますが紙面の都合でカットせざるを得ないのは残念です。

小二:かわそうだとおもった。(母親の添え書き:子供とこの絵を見てとてもよかったです)

小四:人がメインの絵が、あって、すてきだった。ミサイルやばくだんはすごい物なのと思った

小五:広島でおこったことがわかった。戦争はこわいとあらためて感じた。

小六:クオリティーがたかくて分かりやすかった。げんしばくだんのこわさがわかった。知らないことを知れた。

10歳代:当時の戦争のことがよく分かる絵でした。とてもリアルにかかれています戦争の時代に生まれていなかった私にも想像することが出来ました。今のきょうかしょなどは規制によって当時のことをあまりくわしくは書かれていないので、こういうものを見る機会があってよかったです。

20歳代:こうして絵として見ることで、原爆の悲惨さがよく伝わってきます。これらを描いた高校生たちは(私もですが)戦争を経験したことがないですが、絵にすることで、少しでも実感して戦争を再び起こしてはならないという思いを持ってもらえる、素晴らしい活動だと思います。

60歳代:若い世代に受け継いでいく事の大切さ 絵を描くことによって知ることも多くあるでしょう。立ち止まって考える平和の日 先人の無念さを少しでも感じたい。特に若者にこの絵をみて何かを感じてもらえるといいですね。

■アンケートに応じながら「ここに入るのは勇気がいるでしょうね。でも外から見ている人もいますね。大事なことです」と語った民生委員のネームを下げた人の言葉が心に残りました。

平和への思いを込めて! 2023「原爆と人間展」

土浦平和の会

2023「原爆と人間展」は8月4日から8日まで土浦市役所5階県南生涯学習センターで開かれました。今年で18回目です。

広島の高校生の描いた絵36点、広島、長崎の写真40点が展示され、訪れた人たちは特に、原爆の非人間性を描いた高校生の絵を真剣に見入っていました。署名や折鶴のコーナーでは、岸田政権の大軍拡への怒りや、「戦争の影が忍び寄っている、また事故が起きればコントロールできない原発の稼働準備を進めている日本のあり様に怒りを覚えます」、「毎年の原爆と人間展の開催に感謝しています」などの声が寄せられました。

■土浦平和使節団の報告やDVD、映画も・・

開催期間中の8月6日は、会場隣の講座室では、広島に派遣された土浦平和使節団の市内中学生たちの報告のほか、

アメリカ国立公文書館に残されていた広島原爆直後に撮影された「封印された原爆報告書」のDVD、核兵器禁止条約への参加を政府に求めてたちあがった高校生たちを記録したドキュメンタリー映画「声を上げる高校生たち」を上映。朗読あり、歌声ありでピース・デーにふさわしい1日でした。

中学生たちの「戦争や平和について学びたかった」、「平和記念館見学や記念式典参加で見たり聞いたりしたことは、教科書や本で知った以上だった」、「戦争の悲惨さ平和の尊さを学んだ」、「友達や家族に伝えたい」、「語り継いでいかねばウクライナのように戦争になってしまう」などの力強い発言に大きな拍手がわきました。

《近藤輝男・前県平和委員会代表理事》

「戦争と平和を考えるパネル展」

常陸太田平和の会

市教育委員会の後援を受け、市内の小中高にチラシを配布して！

「戦争と平和を考えるパネル展」が8月4日から6日まで、常陸太田市中城町の市生涯学習センター展示室で開催した。主催は常陸太田平和の会、後援は市教育委員会です。

広島市内の高校生が、被爆者の証言を基に描いた「原爆の絵」31点を展示しました。見学者はリアルで迫力ある絵に見

入っていました。

今回は学校にチラシ配布し、道路には立て看板2本立てて宣伝しました。また、4日に市生涯学習センター入口に大きな看板を立てて宣伝しました。

寄稿

被爆地・ナガサキの声を広げたい！
— 原水爆禁止世界大会に参加して —

日本共産党・高橋誠一郎（衆院茨城1区予定候補）

「私たち被爆者の被爆体験をリアルにつかんで追体験してほしい。『非人道性』という言葉のなかに、どのような人間的な破壊があったのかを知ることによって核兵器をなくす行動力になっていく」??

戦後78回目の夏を迎えた被爆地・ナガサキ。世界大会の閉会総会で被爆者の田中熙巳さん（91）は自身の被爆体験を語るとともに、「核抑止力」に依存する核政策の根本的な転換、被爆体験の継承を強く訴えました。

一昨年核兵器禁止条約の発効、ロシアのウクライナへの侵略にともなう核使用の威嚇で、「核抑止論」の破たんと同時に「核で平和は構築できない」という国際世論の高まりを感じます。国内でも「持たず・つくらず・持ち込ませず」とする非核三原則を80%が「堅持」すべきと答え（日本世論調査会、7月29日）、核兵器の使用が身近な危険と感じる国民が多数になっています。条約と核依存からの脱却を展望する生きた国際政治の姿を示し、核の傘から外へ踏み出す世論を広げていきたいと思います。

被爆地・ヒロシマとナガサキは、こうした核兵器禁止条約とウクライナ侵略を受け、「核抑止論」からの脱却を強く求めました。

広島県知事は「核抑止論者に聞きたい。あな



たはすべての生命に責任を負えるのか」として、存在する限り人類滅亡の可能性をはらむ核兵器について「廃絶のほかはない」と断言。長崎市長は、11月に開かれる核兵器禁止条約の第2回締約国会議への日本政府の参加を強く求め、「一日も早く条約に署名・批准してください」と訴えました。

ひとたび使用されれば地獄の惨禍を招く核兵器。世界大会の閉会総会で発言した田中さんをはじめ、「長崎を最後の被爆地に」と叫び続ける被爆者の体験を受け継いで、核兵器廃絶の展望を広げていきます。とりわけ、唯一の戦争被爆国でありながら条約に背を向ける日本政府の安全保障政策の転換を求めたい。「核共有が核廃絶につながる」とまで言う維新はじめ一部自民党の、核のない世界に逆行する動きは論外です。

「戦争の準備ではなく、平和の準備を」--。理性と道徳で広く働きかけていきます。

お知らせ

「原発県民投票—意思表示しようぜ！フェス」開催

いばらき原発県民投票の会では、来年の原発県民投票直接請求に向けて、署名協力者募集などの準備を始めています。この動きを全県に大きく広げていくため、「原発県民投票—意思表示しようぜ！フェス」を開催します。

日時：9月3日（日）14:00～16:30（13:30開場）

会場：茨城県水戸生涯学習センター 大講座室

内容：①川内原発20年延長の是非を問う県民投票の会からの報告

②協力者募集の状況報告、地域に分かれて意見交換

新聞広告やプレスリリースも始まっています。協力者登録はネットでもできます。初めての方も、前回活動した方もぜひこのフェスにご参加ください。



お知らせ
茨城県平和委員会
第1回常任理事会
開催

日程

9月30日（土）
13:30～16:00

場所

水戸共同ビル
※水戸市白梅3-13-8

主な議題

秋の宣伝行動
仲間を増やす取り組み

（編集部）「この夏休みに1日2食しか食べられない児童が4割もいる」という衝撃。小学生から「なぜ防衛費を増やすんですか？」と聞かれた首相は明確に答えず。この国はどこへ行く？

（はみだしコラム）ひとり親家庭へのあるアンケート